

泰仲の弟。通稱勝介。初諱塊。字は生塊、號は
屈齋と號した。祿せられて藩の儒員に列し、
後江戸に遊んで昌平齋に入り、安積良齋・中
村敬宇に學んで詩文を能くした。明治の後名
を彰と改め、法律を研究し、富山縣に判事と
して在任中歿。彰男兒なく、甥丁卯次郎を養
うて嗣とした。

クサカタイチユウ 草鹿泰仲 大聖寺藩の
醫。草鹿玄龍の嫡男。諱は朝璋・璋。字は公裳。
通稱は泰仲。連而一峰は號である。又睡佛
齋・天爵樓主人の別號がある。若年にして藩儒
東方芝山に兄事し、京師に赴き醫を三角東圃
に學び、傍ら巽蓬齋・池内陶所・家里松嶠に詩
文を習ひ、後昌平齋に入つて塩谷君陰に師事
し、傍ら明齋に倣うて傳彩に長じ、卷菱湖の
書風を好んだ。慶應元年父玄龍致仕の後を受
けて、祿百六十石を繼いだ。三年七月十八
日病歿した。時に三十四歳。泰仲性磊落、眼
中に人なく、其の行動天馬空を馳驅する感が
あつたが、著述なく詩文若干を遺した。長男
甲子太郎家を繼ぎ、次男丁卯次郎は叔父彰に
養はれた。

クサカチリュウ 日下癡龍 江沼郡山中眞
宗西派恩榮寺十二代の住職。幼名民部卿。諱
は龍幸・龍淵・癡龍。號は芥舟。大聖寺藩土毛
利淺右衛門尙賢の三男で、文久元年當寺を襲
ぎ、初め宗學を願成寺百叡に學び、後に大教
校教授に任じ、法要類文二卷の著がある。明
治二十年八月十四日歿、三十八歳。法諡晃雲
院。

クサカリブエ 草苜笛 三册。金澤の俳人
牧童の撰となつてゐるが、支考の手によつて
成つたものである。京井筒屋庄兵衛板。支考

の牧童傳が卷初に載せられ、北枝の旅野郎を
あはれむ詞が卷末にある。刊本の牧童傳には
元祿庚午仲秋日支考記とあるが、『我むかし芭
蕉の翁にまみえて』とあつて、それは元祿二
年のことであり、庚午は同三年であるから、
壬午の誤であらう。出版は元祿十六年である
と井筒屋日録に記されてゐる。

クサギ 草木 羽咋郡熊野方郷に屬する部
落。

クサギタウゲ 久佐木峠 鳳至郡皆月から
西二又へ越える峠。高さ二七一米。

クサシユリケンブン 草修理見分 ↓カイ
サクブギョウカイソン 改作奉行廻村。

クサツミ くさ摘 金澤の俳人暮柳舎車大
の春帖と見るべきもので、文化三年から十四
年あたりまで現存して居る。京都勝田善助の
板行。

クサノ 草野 能美郡粟津郷に屬する部落。
もと安宅草野といふた。

クサノアルジ 草のあるじ 一册。金澤の
俳人眉山編。寛政四年京菊屋太兵衛板。巻頭
に青錢の所藏に係る、芭蕉が加賀小松で興行
した『しほらしき名や小松ふく萩芒』の附合
を載せ、又當時の俳人の句を集めたもので、
南無庵閑更の序がある。

クサハラヒケンブン 草拂見分 ↓カイサ
クブギョウカイソン 改作奉行廻村。

クサフカジンシロウ 草深甚四郎 能美郡
土室の人。緩帶編に『土室村内に小名草深の
甚助といふ者あり。或時天狗に取られたりと
て行方知れず。数年の後家に歸り、劍術の上
手に成。金澤に出で、武家に劍術を教へ、深
甚流といへり。此の甚助死後塚に小松を植ゑ

て、今は大木となりて甚助松といふ。近年彼
の流の劍術信仰の人々、此の塚に石碑を建て
たり。但し此の甚助、金澤にては草深甚四郎
と名乗りたるよし。村方にては最初の名にて
甚助と云傳ふ。』と記し、碑石には『聖劍深甚
流祖草深甚四郎墓。』裏面に『寛政癸丑冬十月
二十六日門生森惣太夫良中門生等謹誌』とあ
る。孫弟子が建てた譯だから、甚四郎の時代
も略想像し得られる。深甚流は眞甚流とも書
き、和儀の無拍子流にあつても、亦彼をその
流祖とする。

クサミゴウ 草見郷 珠洲郡の古郷名。和
名抄には訓を缺いてゐるが、久佐見である。
承久三年注進の能登國田數目録に珠洲郡藏見
村と見えるのは、恐らくはその邊であらう。
今の宗立は草見を音讀にしたものであるとの
説、又は今の三崎・正院附近であるとする説
があるが、並びに據がない。

クサモエシユウ 草萌集 一册。金澤の俳
人緊舟居年緒著。加能越を初め諸國俳人の作
句を四季に分けて集め、次に蒼虬・梅室等
の附合がある。序は天保戊戌季冬方圓梅室とあ
り、自跋を附する。板元不明。

クシ 串 能美郡粟津郷に屬する部落で、
枝村に串出・串茶屋がある。年不詳十二月八
日刑部卿法眼頼介(頼廉歟)から堀五兵衛に宛
てた感狀に、『去比串村夜討之刻首一被打捕云
々。』とあるもこの所である。又北陸道拔書
には、是より南に廣野があつて陰眸多景、之
を串野といふとあり、菱惣紀聞には、串領瀨
端に瓦を焼いたことがあり、焼物も作つたと
見える。明治中に至り猿馬場を本村に併合し
た。

クシ 櫛 ↓クシシゴウ 櫛師郷。
クシイナダキヒメジンジャ 久志伊奈太伎
比咩神社 鹿島郡國分に在る。式内等舊社記
に『久志伊奈太伎比咩神社。式内一社。矢田郷
國分村地内久志伊羅山鎮座。今稱久志伊羅
山社。或云火宮。』と記する。神名帳の祕釋に
久志伊奈太伎の伎を符字とするものは至當の
説であり、祭神は奇稻田姫である。

クシイナダキヒメジンジャ 久志伊奈太伎
比咩神社 鹿島郡飯川・下入會地に鎮座する。
正保四年の棟札に若宮八幡とあり、文政に至
つて式社の號を冒したといはれる。↓ワカミ
ヤハチマンジンジャ 若宮八幡神社。

クシイラヤマ 久志伊羅山 鹿島郡國分の
部落から西方三〇〇米許の田間に在る岡山
で、久志羅山ともいふ。久志伊奈太伎比咩神
社に鎮座する。

クシイラヤマユライシヨ 久志伊羅山由來
書 一册。鹿島郡國分村久志伊羅山に鎮座す
る久志伊奈太伎比咩神社の傳記である。明曆
三年に筆記せられたもの。

クシガタモチ 櫛形餅 古へ白山比咩神社
にて、正月元日及び七日の大祭その他に供へ
たもので、常の鏡餅に入込みを作つて、凹字
の如き形にしたものである。

クジカへ 鬮替 札替ともいふ。藩政時代
に、村方にて田地割施行の後、地味に差等あ
つて、持高に對する收穫の比率に不同を生じ
た時は、五年目・七年目又は十年目に、田地
と畑地とを鬮として割替へ、地元の平均を計
ることがある。これは村方限りに行ふもので、
組織許の十村に届出ることを要せぬ。能登に
はこの事が多かつた。